



2019年6月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年8月14日

上場会社名 ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6090 URL https://humanmetabolome.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 菅野 隆二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経営管理本部長 (氏名) 長谷川 哲也 TEL 03-3551-2180
 定時株主総会開催予定日 2019年9月21日 配当支払開始予定日 -
 有価証券報告書提出予定日 2019年9月25日
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期の連結業績（2018年4月1日～2019年6月30日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期	989	-	△526	-	△515	-	△596	-
2018年3月期	938	2.6	△140	-	△149	-	△156	-

(注) 1. 包括利益2019年6月期 △597百万円 (-%) 2018年3月期 △148百万円 (-%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2019年6月期	△101.92	-	△41.9	△31.3	△53.2
2018年3月期	△26.92	-	△8.8	△7.6	△15.0

(参考) 持分法投資損益 2019年6月期 -百万円 2018年3月期 -百万円

(注) 1. 2019年6月期は決算期変更により15ヶ月決算となっておりますので、対前期増減率については記載していません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年6月期	1,367	1,214	82.7	193.11
2018年3月期	1,921	1,752	89.2	293.78

(参考) 自己資本 2019年6月期 1,130百万円 2018年3月期 1,713百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2019年6月期	△265	△54	3	1,048
2018年3月期	△178	△87	4	1,361

2. 配当の状況

	年間配当金						配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2018年3月期	-	0.00	-	-	0.00	0.00	-	-	-
2019年6月期	-	0.00	-	-	0.00	0.00	-	-	-
2020年6月期(予想)	-	0.00	-	-	0.00	0.00	-	-	-

3. 2020年6月期の連結業績予想（2019年7月1日～2020年6月30日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	920	-	△300	-	△299	-	△302	-	△51.59

(注) 2019年6月期は決算期変更により15ヶ月決算となっておりますので、対前期増減率については記載していません。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2019年6月期	5,853,800株	2018年3月期	5,831,300株
2019年6月期	34株	2018年3月期	34株
2019年6月期	5,848,167株	2018年3月期	5,815,090株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

当社は、2019年8月22日（木）に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料については、開催後遅滞なく、TDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	6
(3) 連結株主資本等変動計算書	8
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	10
(セグメント情報等)	11
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15
4. その他	16
(1) 生産、受注及び販売の状況	16
(2) 役員の異動	17

1. 経営成績等の概況

当社は決算期変更に伴い、当事業年度は15ヶ月の変則決算となっております。このため、前年同期との比較は行っておりません。

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における世界経済は、米国・中国間などの通商問題の動向が懸念されたものの、米国・欧州を中心におおむね堅調に推移しました。国内においても、企業収益や雇用環境の改善等を背景として、緩やかな回復基調が継続しました。

当社グループが属するライフサイエンス業界においては、医療・介護の効率化に向け、予防医療や個別化医療を推進する動きが増え、健康管理等へのニーズが世界的に高まっています。

このような状況の中、当社グループでは、メタボロミクス事業において、学会への出展やキャンペーンといった販促活動を中心に受注拡大に向けた取り組みを継続するとともに、海外市場の拡大や新サービス展開等に注力してまいりました。

また、バイオマーカー事業においては、大うつ病性障害（以下「うつ病」といいます。）バイオマーカーの事業化に向けた技術開発や体制整備を継続するとともに、新たなパイプラインや関連ビジネスの検討に取り組みました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は、メタボロミクス事業における受注は回復傾向にあるものの、上期に顧客の予算執行が低調であったこと等を背景に989,391千円となりました。

一方、うつ病バイオマーカーの事業化に向けた研究開発や、メタボロミクス事業の更なる成長に向けた基盤強化に取り組んだこと等から、研究開発費を中心に販売費及び一般管理費が増加したため、営業損失は526,175千円、経常損失は515,312千円、メタボロミクス事業において一部の固定資産について減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は596,026千円となりました。

	<参考> 2018年3月期 (12ヶ月)	2019年6月期 (15ヶ月)
売上高	938,178千円	989,391千円
営業損失(△)	△140,914千円	△526,175千円
経常損失(△)	△149,703千円	△515,312千円
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△156,527千円	△596,026千円

セグメントの状況を示すと、次のとおりであります。

なお、第3四半期連結会計期間より、従来の報告セグメントである「メタボローム解析事業」を「メタボロミクス事業」に名称を変更しております。

<メタボロミクス事業>

	<参考> 2018年3月期 (12ヶ月)	2019年6月期 (15ヶ月)
売上高	936,027千円	988,986千円
(内国内売上高)	779,817千円	816,348千円
(内海外売上高)	156,209千円	172,637千円
セグメント利益	445,146千円	232,903千円

当事業セグメントにおいては、前期に引き続き積極的な販促活動を展開し、製薬・食品分野等において大口案件の受注拡大に取り組んだ他、2018年4月及び10月にリリースした新サービスの受注獲得に注力しました。海外においても米国を中心に大口顧客獲得に向けた取り組みを強化した他、欧州やアジア圏の市場拡大に向けた活動も活発に行いました。しかしながら、当連結会計年度においては、前年同期のような大型案件の受注がなかったことや、上期の受注が低調であったこと等により、売上高は988,986千円、セグメント利益は232,903千円となりました。

＜バイオマーカー事業＞

	＜参考＞ 2018年3月期 (12ヶ月)	2019年6月期 (15ヶ月)
売上高	2,150千円	405千円
(内国内売上高)	2,150千円	285千円
(内海外売上高)	－千円	120千円
セグメント損失(△)	△185,305千円	△204,294千円

当事業セグメントにおいては、うつ病バイオマーカーの実用化・事業化に向け、測定メソッドの開発並びに臨床研究に向けた活動（臨床性能評価等）を継続しました。また、新たなパイプラインやバイオマーカー関連のビジネスの検討に取り組み、エクソソーム精製キット（研究用）の販売を開始しました。この結果、売上高は405千円、セグメント損失は204,294千円となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産は1,214,342千円となり、前連結会計年度末に比べ548,636千円減少しました。これは、売掛金が150,456千円、有価証券が100,190千円、現金及び預金が312,955千円減少したこと等によるものであります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産は153,099千円となり、前連結会計年度末に比べ5,268千円減少しました。これは、工具、器具及び備品が6,486千円、リース資産が41,777千円、減価償却累計額が57,314千円増加したこと等によるものであります。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債は116,048千円となり、前連結会計年度末に比べ5,989千円減少しました。これは、未払法人税等が2,933千円減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債は36,949千円となり、前連結会計年度末に比べ9,642千円減少しました。これは、リース債務が12,023千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は1,214,444千円となり、前連結会計年度末に比べ538,273千円減少しました。これは、資本金が7,503千円、資本剰余金が7,503千円、新株予約権が44,405千円増加したものの、親会社株主に帰属する当期純損失596,026千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ312,955千円減少し、1,048,424千円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの概況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは265,403千円の支出となりました。これは主に税金等調整前当期純損失591,429千円の計上、売上債権151,132千円の減少、減価償却費80,975千円の計上、減損損失77,451千円の計上等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは54,831千円の支出となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出141,618千円、有価証券の償還による収入100,000千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは3,267千円の収入となりました。これは株式の発行による収入15,106千円、リース債務の返済による支出11,838千円によるものであります。

(4) 今後の見通し

今後の世界経済の見通しは、米中の貿易摩擦や英国のEU離脱問題など、保護主義的な色彩が更に強まるものと懸念され、先行きに不透明感のある展開が予想されます。また国内経済においては、新元号「令和」の発表によって幕を開けた新時代への期待などもあるものの、総じて力強さに欠け、国内消費を大きく押し上げるものとはなっておりません。国内消費は長引くデフレ傾向からは脱しておらず、10月に控えた消費増税を前に足踏み状態が続いております。

当社が属するライフサイエンス業界は、少子高齢化といった国内環境にあっても、成長が見込まれる数少ない分野の一つとして、研究開発投資が高水準で継続しており、今後も同様に推移することが想定されます。

このような状況のもと、当社グループでは、メタボロミクス事業において、従来から注力している米国・アジア太平洋地域での事業拡大に取り組み、グローバルな認知度向上を図ってまいります。また、国内においても新たな

測定・解析プランの開発等を通じた新市場開拓に尽力するとともに、営業手法の見直し等による営業活動の効率化、分析時間短縮等による生産性の向上に取り組んでまいります。

バイオマーカー事業においては、PEA(うつ病バイオマーカー)の実用化・事業化を引き続き推進する他、メンタルヘルス分野を中心に新たなパイプラインやバイオマーカー関連ビジネスの開発を通じたポートフォリオの再構築に取り組んでまいります。

このような見通しのもと、次期の売上高については主力であるメタボロミクス事業において、実質的な増収を見込んでおります。利益につきましては、前期において拡充した設備や人材の活用に取り組み、適切なコストコントロールによる収益性の回復に努めてまいります。

なお、為替レートは、1米ドル110円を見込んでおります。

	2019年6月期（実績） （15ヶ月）	2020年6月期（見通し） （12ヶ月）
売上高	989百万円	920百万円
営業損失（△）	△526百万円	△300百万円
経常損失（△）	△515百万円	△299百万円
親会社株主に帰属する 当期純損失（△）	△596百万円	△302百万円
米ドル平均レート	110.72円	110.0円

（注）当社グループの主力事業であるメタボロミクス事業は、医療機関・研究機関を中心とした多くの顧客の年度末に納期が集中することから、売上高が当社第3四半期（1月～3月）に偏重する事業特性を有しております。従って、業績管理は年次で行っており、当社グループの第2四半期連結累計期間の業績予想については投資家へ提供する情報としての適切性・有用性に問題が生じるおそれがあるため、業績予想は通期のみ記載しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、将来のIFRS適用に備え、社内外の動向や当社グループへの影響等について調査を行い、その適用時期等についての検討を進めております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,261,379	948,424
売掛金	220,334	69,877
有価証券	200,190	100,000
商品	14,829	29,750
仕掛品	2,402	12,095
原材料及び貯蔵品	9,568	12,985
その他	54,274	41,208
流動資産合計	1,762,979	1,214,342
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	21,735	22,540
工具、器具及び備品	325,880	332,367
リース資産	136,892	178,670
減価償却累計額	△344,778	△402,093
有形固定資産合計	139,730	131,485
無形固定資産	8,936	9,988
投資その他の資産		
その他	9,700	11,625
投資その他の資産合計	9,700	11,625
固定資産合計	158,367	153,099
資産合計	1,921,347	1,367,441
負債の部		
流動負債		
買掛金	66	54
リース債務	9,452	9,637
未払法人税等	7,510	4,576
その他	105,008	101,780
流動負債合計	122,038	116,048
固定負債		
リース債務	31,751	19,728
繰延税金負債	954	1,416
資産除去債務	13,885	15,805
固定負債合計	46,592	36,949
負債合計	168,630	152,997
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,454,687	1,462,191
資本剰余金	1,443,404	1,450,908
利益剰余金	△1,205,115	△1,801,142
自己株式	△67	△67
株主資本合計	1,692,909	1,111,889
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	20,196	18,537
その他の包括利益累計額合計	20,196	18,537
新株予約権	39,611	84,017
純資産合計	1,752,717	1,214,444
負債純資産合計	1,921,347	1,367,441

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	938,178	989,391
売上原価	195,724	316,705
売上総利益	742,453	672,686
販売費及び一般管理費	883,368	1,198,862
営業損失(△)	△140,914	△526,175
営業外収益		
受取利息及び配当金	909	243
補助金収入	2,167	6,312
為替差益	—	6,375
受取賃貸料	2,000	—
その他	931	320
営業外収益合計	6,007	13,251
営業外費用		
支払利息	572	740
株式交付費	150	98
為替差損	13,686	—
和解金	—	1,400
その他	387	150
営業外費用合計	14,797	2,388
経常損失(△)	△149,703	△515,312
特別利益		
固定資産売却益	530	—
新株予約権戻入益	—	1,335
特別利益合計	530	1,335
特別損失		
減損損失	—	77,451
特別損失合計	—	77,451
税金等調整前当期純損失(△)	△149,173	△591,429
法人税、住民税及び事業税	9,753	4,136
法人税等調整額	△2,399	461
法人税等合計	7,354	4,597
当期純損失(△)	△156,527	△596,026
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△156,527	△596,026

(連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年6月30日)
当期純損失(△)	△156,527	△596,026
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	7,950	△1,659
その他の包括利益合計	7,950	△1,659
包括利益	△148,577	△597,685
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△148,577	△597,685
非支配株主に係る包括利益	—	—

（3）連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,447,484	1,436,200	△1,048,587	—	1,835,097	12,245	12,245	12,070	1,859,413
当期変動額									
新株の発行	7,203	7,203			14,407				14,407
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			△156,527		△156,527				△156,527
自己株式の取得				△67	△67				△67
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						7,950	7,950	27,541	35,491
当期変動額合計	7,203	7,203	△156,527	△67	△142,188	7,950	7,950	27,541	△106,696
当期末残高	1,454,687	1,443,404	△1,205,115	△67	1,692,909	20,196	20,196	39,611	1,752,717

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）

（単位：千円）

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,454,687	1,443,404	△1,205,115	△67	1,692,909	20,196	20,196	39,611	1,752,717
当期変動額									
新株の発行	7,503	7,503			15,007				15,007
親会社株主に帰属する当期純損失（△）			△596,026		△596,026				△596,026
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△1,659	△1,659	44,405	42,746
当期変動額合計	7,503	7,503	△596,026	—	△581,019	△1,659	△1,659	44,405	△538,273
当期末残高	1,462,191	1,450,908	△1,801,142	△67	1,111,889	18,537	18,537	84,017	1,214,444

（4）連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前連結会計年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失（△）	△149,173	△591,429
減価償却費	61,470	80,975
減損損失	—	77,451
受取利息及び受取配当金	△909	△243
受取賃貸料	△2,000	—
支払利息	572	740
為替差損益（△は益）	7,510	△6,375
補助金収入	△2,167	△6,312
株式報酬費用	27,541	45,740
株式交付費	150	△98
新株予約権戻入益	—	△1,335
売上債権の増減額（△は増加）	△54,189	151,132
たな卸資産の増減額（△は増加）	△4,027	△28,031
仕入債務の増減額（△は減少）	62	△12
未払金の増減額（△は減少）	△1,046	22,739
未払費用の増減額（△は減少）	3,470	9,395
未払又は未収消費税等の増減額	3,202	△16,639
その他	△38,161	△6,140
小計	△147,695	△268,442
利息及び配当金の受取額	1,780	916
賃貸料の受取額	2,425	—
利息の支払額	△572	△740
補助金の受取額	2,209	5,853
補助金の返還額	△552	△30
法人税等の支払額	△35,791	△2,961
営業活動によるキャッシュ・フロー	△178,196	△265,403
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△84,519	△141,618
有形固定資産の売却による収入	3,000	—
無形固定資産の取得による支出	△4,838	△10,772
有価証券の償還による収入	—	100,000
その他	△812	△2,439
投資活動によるキャッシュ・フロー	△87,170	△54,831
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	14,257	15,106
リース債務の返済による支出	△9,282	△11,838
自己株式の取得による支出	△67	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,907	3,267
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,498	4,012
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△258,962	△312,955
現金及び現金同等物の期首残高	1,620,341	1,361,379
現金及び現金同等物の期末残高	1,361,379	1,048,424

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

Human Metabolome Technologies America, Inc.

Human Metabolome Technologies Europe B.V.

HMTバイオメディカル株式会社

(2) 非連結子会社

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

a 満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

b その他有価証券

時価のあるもの

投資信託のうち預金と同様の性格を有する有価証券については、移動平均法による原価法

② たな卸資産

a 商品

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

b 仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

c 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を、在外連結子会社は定額法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～18年

工具、器具及び備品 2年～15年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）で償却しております。

③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 重要な繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用として処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(報告セグメントの概要)

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、CE-MS法によるメタボローム解析技術を基盤に事業を展開しており、そのサービス、製品、収益モデル等を勘案し、報告セグメントを「メタボロミクス事業」、「バイオマーカー事業」としております。

「メタボロミクス事業」では、顧客から受領した測定試料をメタボローム解析し、結果を報告する受託解析サービスの提供を、「バイオマーカー事業」では、バイオマーカーを用いて体外診断用医薬品や診断機器の開発を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		
	メタボロミクス 事業	バイオマーカー 事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	936,027	2,150	938,178
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	936,027	2,150	938,178
セグメント利益又は損失 (△)	445,146	△185,305	259,840
セグメント資産	454,274	54,807	509,081
その他の項目			
減価償却費	37,404	13,401	50,806
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	115,277	882	116,159

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		
	メタボロミクス 事業	バイオマーカー 事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	988,986	405	989,391
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	988,986	405	989,391
セグメント利益又は損失 (△)	232,903	△204,294	28,608
セグメント資産	304,269	55,167	359,437
その他の項目			
減価償却費	73,864	1,879	75,744
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	142,833	2,896	145,729

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	259,840	28,608
全社費用（注）	△400,755	△554,784
連結財務諸表の営業損失（△）	△140,914	△526,175

（注）全社費用は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	509,081	359,437
全社資産（注）	1,412,266	1,008,004
連結財務諸表の資産合計	1,921,347	1,367,441

（注）全社資産は、主に各報告セグメントに配分していない現金及び預金、有価証券等であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額（注）		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	50,806	75,744	10,664	7,848	61,470	83,593
有形固定資産及び無形固定資産 の増加額	116,159	145,729	19,435	9,639	135,594	155,368

（注）1. 減価償却費の調整額と有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない東京事務所の供用資産に係るものであります。

2. 報告セグメントの減価償却費は、売上原価及び一般管理費に配賦されております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	その他	合計
781,968	156,209	938,178

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
2. その他に属する国又は地域は、北米、欧州及び本邦を除くアジア地域であります。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	その他	合計
816,634	172,757	989,391

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。
2. その他に属する国又は地域は、北米、南米、欧州及び本邦を除くアジア太平洋地域であります。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		
	メタボロミクス事業	バイオマーカー事業	計
減損損失	77,451	—	77,451

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）
1株当たり純資産額	293.78円	193.11円
1株当たり当期純損失（△）	△26.92円	△101.92円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額（△）の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年6月30日）
1株当たり当期純損失金額（△）		
親会社株主に帰属する当期純損失（△） （千円）	△156,527	△596,026
普通株主に帰属しない金額（千円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失（△）（千円）	△156,527	△596,026
普通株式の期中平均株式数（株）	5,815,090	5,848,167
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額の算定に含まれな かった潜在株式の概要	新株予約権5種類 （新株予約権の数1,851個）	新株予約権6種類 （新株予約権の数2,226個）

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

4. その他

(1) 生産、受注及び販売の状況

当社は決算期変更に伴い、当事業年度は15ヶ月の変則決算となっております。このため、前年同期との比較は行っておりません。

① 生産実績

生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	＜参考＞ 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年6月30日)
	生産高 (千円)	生産高 (千円)
メタボロミクス事業	3,948	5,373
合計	3,948	5,373

- (注) 1. 金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。
 2. 上記の金額は、メタボロミクス事業のうち、試薬キットに係る部分を記載しております。
 3. その他メタボロミクス事業及びバイオマーカー事業については、業務の性質上生産として把握することが困難であるため記載しておりません。

② 仕入実績

仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	＜参考＞ 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年6月30日)
	仕入高 (千円)	仕入高 (千円)
メタボロミクス事業	18,580	30,932
合計	18,580	30,932

- (注) 1. 金額は、仕入価格によっており、消費税等は含まれておりません。
 2. 上記の金額は、メタボロミクス事業のうち、限外ろ過フィルターに係る部分を記載しております。
 3. その他メタボロミクス事業及びバイオマーカー事業については、業務の性質上仕入として把握することが困難であるため記載しておりません。

③ 受注実績

受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	＜参考＞ 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年6月30日)	
	受注高 (千円)	受注残高 (千円)	受注高 (千円)	受注残高 (千円)
メタボロミクス事業	1,004,228	177,217	1,076,581	263,674
バイオマーカー事業	2,150	—	3,405	3,000
合計	1,006,379	177,217	1,079,987	266,674

(注) 金額は、販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

④ 販売実績

販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	＜参考＞ 前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年6月30日)
	販売高 (千円)	販売高 (千円)
メタボロミクス事業	936,027	988,986
バイオマーカー事業	2,150	405
合計	938,178	989,391

(注) 金額は、販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(2) 役員の変動

2019年9月21日開催の当社定時株主総会及び取締役会で次のとおり選任並びに退任の予定であります。

① 代表者の変動

・新任候補者

代表取締役社長 橋爪 克仁(現 取締役 執行役員 バイオマーカー事業カンパニープレジデント)

・退任予定者

代表取締役社長 菅野 隆二(会長に就任予定)

② その他の役員の変動

・退任予定取締役

取締役 長谷川 哲也